

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1667号 2003年01月14日(火)

《 dollar under the gun 》

今年これまでの為替市場で特徴的なのは、ドルに対する見方が大きく変化したことである。筆者は昨年12月09日(1664号、<http://www.ycaster.com/news/021209.pdf>)に明らかにした2003年相場予想で、「ここ数年に比べて、ドルの脆弱性は増大すると見たい」を書き出しにしたが、実際のところ年明けとともに12月当時には市場で支配的だった「ドル高見通し」は大きく揺らぎ、「ドル安」に予想が傾いてきている。

その代表的な記事が、1月10日の日経金融新聞一面トップの「米、ドル安志向強める」である。この記事は、大きな記事であるにもかかわらず、書き手が誰だか分からないという不思議な記事で、ドル・円相場の先行きに関してドルが強くなる可能性を最初から排除した上で、今後のドル相場の展開に関してアメリカ政府の動きを踏まえた上で、三つのシナリオを提示していた。

「110円 景気対策へのつなぎ」

「115円 日本の当局と攻防」

「現状 政策余地など格差」

昨年末12月の時点では、こうした為替予想記事から「ドル高」のシナリオが欠けるなど信じられない事態である。もっともこの記事は「アメリカの新しい財務長官のスノー氏はじめ、バーナンキFRB理事などがドル安志向に傾きつつある」という視座から書かれている。

筆者が見るところ、スノー氏がたとえばビジネス・ラウンド・テーブルの会長であり、その団体が「ドル高是正」を要請しているからと言って、財務長官になって直ぐにその方向に動き出すと考えるのは早計の誹りを免れないと思うし、ましてやバーナンキ理事の発言をもって「FRBがドル安志向に動き始めた」と結論を急ぐのは間違っていると思う。しかし、プライス・ムーブメントを見ても、「ドル高のシナリオ」を排除したくなるほどドルが脆弱に見え始めたことは明らかである。そういう意味で、この記事は市場のセンチメントをよく反映している。

今年これまでのドルの動きを見ると、何度かレベルを落としそうになっても戻す場面が

多かった。たとえばブッシュの新経済政策が市場の予想を規模で大きく上回ったときなど、しかし、そのときでもドルには「上値を追う」勢いが無い。相場が一つの方向を封じられた時には、その逆の方向に時間の経過とともに傾斜を強めるのは自然で、実際のところ今週の市場では、ドルは既に再び118円台を経験している。

ブッシュの規模から見れば大きな経済政策にも関わらず、ドルが反発するよりはむしろ対ユーロでも、対円でも南（下）を向いている理由については以下のような背景が考えられよう

1. この日経金融新聞の記事の内容にも多少関係するが、米新政権の財務長官など枢要閣僚の為替に対するスタンスが明確に示されず、市場としては常に「ドル安志向ではないか」と疑わざるを得ない状況に置かれている
2. 対イラク戦争を控えて、ブッシュの大きな経済政策だけを頼りに米経済の回復を信じてアメリカ市場に資金を入れるには、リスクが大きすぎるし、よって資本のアメリカへの流入も加速する気配がない。経常収支の赤が相場に出ている
3. 日本の通貨もヨーロッパの通貨も特に買い進む材料はないが、それ故にそうした中でドルの頭の重さは、これまで表面化してこなかった潜在的な脆弱性をドルが持っていることを際立たせる形で市場関係者に示している

など。今週はこうしたアメリカ・サイドの事情に加えて、日本では長いこと為替政策の中心にいた黒田さんが財務官を辞め、溝口善兵衛国際局長が新たに財務官に就任するという人事もある。アメリカの財務長官の交代がドルに対する市場の信任を揺るがしているのと同じように、日本の為替政策の最高責任者交代は、ドル安阻止・円安基調持続の維持で間違いない日本の政策の有効性に対する疑念を市場にもたす。為替市場介入の巧拙を含めて、自ら思う方向に市場を引っ張る論理的、外交的パワーが新財務官には試されるのである。溝口新財務官が試される中で、市場の大きなトレンドがどちらかと言えば、「ドル安・円高」に傾斜する事情はしばらく続こう。

先週の「韓国レポート」の続きを掲載する前に、過去一週間で読んだ記事の中で一番興味深かったのは「Fed expects refinancing to ebb, drying up some consumer cash」(オール・ストリート・ジャーナル・ジャーナル)だった。これは1月6日の記事だが、アメリカ消費者の旺盛な消費を支える一つの大きな要因だった住宅ローンのリファイナンス(住宅ローン金利の低下を背景とする借り換え)。それに伴って生ずるキャッシュと、それを当てにしての支出(消費)が、いよいよ「低金利の持続」の中で、特に今年後半にかけて落ちてくるのではないかとFRBが懸念しているというもの。

ブッシュの減税前倒しなど一連の策は、こうした金融情勢を背景とする消費の予想される落ち込みを最初から補おうとしているもののようにも見える。しかし、既にGDPの6.9%にも達しているアメリカの消費レベルをさらに上げようと言う発想そのものに危うさ

があり、プッシュの経済政策の市場での評価が今ひとつ上がらない一つの理由になっているのではないか、という印象は強い。

《 nationalism and its future course 》

それでは、先週の「韓国レポート」の続きです。今回は二回続きの2回目です。

盧武鉉の選出にもその臭いが強いのだが、韓国に来て思うこと、そして彼らの行動パターンを見て思うのは、独特の民族主義的欲求、希求の強さだ。特に韓国の若い人々のアメリカに対する姿勢、ワールドカップでの熱狂ぶりを見ていると、韓国の人々には「民族」に対する強烈な思いがあるように見える。日本人が失ったものだ。

それは何故か、というのは私にとってずっと大きなテーマだった。韓国が置かれてきた歴史的環境は日本やアメリカとはかなり違う。長い被支配の歴史があり、かつ戦後も分断を経験し、ドイツが東西を融合した後も世界で唯一残った分断国家の重荷を背負っている。これは私の勝手な想像だが、韓国の人たちはずっと日本や中国、アメリカ、ロシアに囲まれてきたこと、そしてそれらの国にもまれてきたことから、自尊心の回復、プライド、民族の地位の回復への熱意がいまだもって他の国々より、民族より強いのではないか。

よって、民族的アスピレーションの方向から言えば、南北統一への希求は強い筈だ。しかし、今すぐにはそれを言い出せない。韓国の人々にはそれへの負い目もあるのかもしれない。その分だけ、彼らが呼ぶところの「外勢」(アメリカ、日本など外部の勢力)に対する姿勢は時に厳しいものになる。朝鮮半島の民族主義は、まだその行方を見つけたとは言えない、と筆者は思う。行き先を見つけられなくて、さまよっているのだ。

今回の韓国の大統領選挙で一つ面白かったのは、民族主義的色彩を持つ盧武鉉支持世代(386世代と言われている=1960年代に生まれ、80年代に大学を通過し、90年代に30台を過ぎた)が、本来は国境を越える性格を持つもっとも開放的なツールであるインターネットを使いこなして、自分たちの支持する候補を当選させたことである。386の下での2030世代(20代、30代)さらにレッド・デビル世代(ワールドカップ支援の原動力世代)はもっとそうだ。

この問題に関しては、28日の中央日報に咸在鳳という人が386とインターネット世代という文章を書いているので、それをちょっと解説を含めて要旨を紹介しよう。姜さんが口頭で翻訳してくれたのを、私が書き取ったもので、文章そのものではない。

「今回の選挙は韓国の伝統的な地域主義に加えて、世代間闘争の選挙でもあった。韓国は97年、98年の経済危機でのIMF管理を経て様々なセクターで世代交代が進んだ。たとえば企業では50代以上が経営者も含めて放逐され、若い人々が幹部として台頭した。現在の韓国の企業の経営者の平均は50歳前後であり、それは銀行の頭取もかわらな

い。

全体的に言って、IMF 管理の中で台頭してきたのは 386 世代である。彼らは政治にも新しい風を求めて李会昌よりも盧武鉉を応援した。その後の今回選挙検証によれば、根強く残る地域主義に加えて、年代間の政治の捉え方、考え方に対する違いが、投票行動に色濃く出ている。

その 386 世代と結びついたのがインターネットである。386 は一種の民族主義的熱意に満ちていて、それはアメリカでの冬のオリンピックでの判定ミスに対する怒りやワールドカップで示された民族的自信を背景に、いわゆる外勢に対する反感をバックボーンにしているが、彼らは外勢に対する有効な手段としてネットを使った。

たとえば冬のオリンピックの際には、アメリカ・オリンピック委員会の hp を過剰アクセスによって麻痺させた。つまり、本来はもっとも開放的で、もっとも国境を越える性格のものが民族主義の体質を内包する 386 と結びついたのである。386 がネットと結びついた（本来違う性格の）のは以下の理由による

- 1 . 386 世代の世界観を伝搬し、その世代を結集するのにもっとも効果的なツールがインターネットだった
- 2 . つまり、386 の閉鎖的な世界観がもっとも開放的なツールにうまく乗った
- 3 . 具体的な例としては冬のオリンピックでのオーノ問題であり、米軍の女子中学生二人の事故死問題であった

386 世代のアスピレーションとは、反独裁（民主化運動、古い政治の拒否）反外勢である。それがツールとしてのネットを使っての政治的なアピールの可能性に気づき、民族的プライドの実現が可能であることに気がついた。ここで、「民族主義」と「反外勢主義」が結合した。

盧武鉉は、母胎としては民族主義、反外勢の勢いに乗った大統領である。現象的に出ているのは、反米主義だ。盧武鉉がアメリカにも行ったことがなく、日本にも 20 年前にしか一度行ったことがあるという状況は、386 の民族主義のムード（自尊心の回復、自信回復、外勢と対等になりたいという心）に合致していたかもしれない。

しかし問題はこれから、こうした民族主義、反外勢の勢いに乗った大統領は、

- 1 . 政治の 386 からの容量の拡大
- 2 . 386 を上回る包容力の提示（外勢に対しても）

を実現して行かねばならない。386 コンピューターでは、ネット仕様は無理であるからだ。

と。これは盧武鉉政権がこれから直面する課題を端的に指摘・予言していると言える。新政権は、国内支持基盤の民族主義の底流と、経済の発展のために必要なインターナショナルリズムの均衡を取らなければならない。また、盧武鉉にしてもおそらく理解の枠を越えている金正日という人間とどう付き合うのか。おそらく南の民族主義では金正日は包み込むことは出来ないだろう。この二方向の舵取りは、容易ではないはずだ。

《 coex mall in Seoul 》

PC 房というのは、日本にも大久保、新大久保あたりにもある。一般的イメージは、高速回線に繋がった PC が並んでいる部屋、といったイメージだ。実際もそうである。

しかし私の疑問は、韓国のようにブロードバンドが家庭に普及した国で、なぜコンピューターを何台も並べた PC 房が未だもって人気なのか、という点だった。なぜなら、ネットワークゲームなら各自が家に居ても遊べるだろうにと思ったからだ。

PC 房と一緒にいったのは、信榮さんとその友達。彼は今サンフランシスコを活動の拠点としている。お父さんの仕事の関係で東京に数年住んでいたことがあり、そのときは今の私の高円寺の家からわずかに数分のところに居たという話は既に紹介した。彼はそこからアメリカン・スクールに通っていた。

実際に PC 房に行って初めて分かったことがいくつもあった。なぜ韓国の PC 房が主に住宅街にあって、しかもそこに若い連中が集まるか。実は、PC 房で好んで行われているゲームは、リネージュ、ラクランとかなど家で一人でできるオンラインゲームではなく、何人かが隣同士になって一緒にやった方が楽しいゲームだった。star などかとか、いっぱいあった。で、そういう皆でやった方が楽しいゲームをしに、住宅街の高校生などが携帯で誘い合っているのだ。

最近では、マンションの一室を占めるような PC 房もできているようだ。しかし、当然ながらそういうところでは、色々な問題が起きる。私が韓国の若者二人と行った PC 房は、全部で 50 台くらいコンピューターが並んでいた。使い始めた時から終わりになるまでの時間が計測される。そして、従量制で料金を支払う。そういう方式だった。韓国中の PC 房がそういう料金体系かは知らないが。

皆何をやっているかという、大部分は戦闘ゲーム。いろいろなゲームがあって、ゲームにそれほど詳しくない小生には分からない。しかし、勝敗を競うものが多いことは、例外ではない。ま、姜さんの息子さんはプレステ 2 で家で時々やっているというので、韓国では誰もが PC 房に来て遊んでいるわけではない。

PC 房に、一日に何時間もかじりついて家に帰らない若者も韓国では多いらしい。どこの社会でも、対象が何であれ依存症患者は出てくる。カジノでも同じ事。隣り合ってゲームをする趣味を失った私のような人間には PC 房は関係ない。しかし、ゲームをやりながら、気が向くと時々ノサモの HP を見ているような連中が、韓国では政治の流れを変えているような気がする。

ソウルのこれまでの歓楽街といえば、ミョンドンだった。市庁舎の広場にも近く、ホテル・ロッテからも歩いて行ける。そもそも30年ほど前は漢川がソウルの市街の南の限界だった。

しかし、その図式は漢川の南にAPECなどを機会に新しいビル街、そしてその下に地下街 coex mall ができて、そこに新しいショップ、映画館、デパート (hyundai) などが集中的に集まったことにより、ソウルの街の様相は大きく変わってきた。具体的には、ソウルの街の南への重心の移動である。

今までの繁華街ミョンドンに対しては、「古い、ダサイ街」の印象が強まっている。徐々にお金持ちは買い物の地域を漢川の南に移動を始めているのだ。実際のところ、ミョンドンはすでに狭い道と狭隘な店の重なり、それに街自体が古くなったことにより、その魅力を失いつつあるように私にも見えた。

時間の経過とともに、瀟洒な店、ブランドショップは南に移り、さらに消費者も移った。こうしたなかで、北と新しい富の象徴となっている南との経済格差は大きくなっている。実際のところ、南の地域の教育水準、住宅価格、所得階層などは明らかに北を大きく上回りつつある。ソウル大学の学生の3割は南の出身だと言われるし、進学校が南にあることから、進学を狙う子息の親は、南に住居を移しつつある。(韓国では居住地域が行く学校を決めるから、良い学校に行こうと思ったら良い学校がある地域に移住するしかない)

12月30日に両方(ミョンドンと漢川から南の、主に東南部分)に行ってみたが、その印象は「南の方が人々の所得が1割から2割方高いのではないか」というものだった。人々が着ているもの、所作、そして雰囲気醸し出すものから判断してである。店の格も明らかに南の coex mall の方が高い。聞くところによると、この地方の住宅価格は非常に高騰しているという。ホンミョンボが買ったマンションが短期間に非常に値上がりして、それが社会問題となったこともあったという。韓国のお金持ちは、大体において不動産でお金持ちになったケースが多いという。

世界の都市では普通は南が低所得者、北が高所得者の構図となる。ロンドンでも南米の都市でもだいたいそうである。しかし、このソウルだけは違う。面白い点だ。北はソウルでは1時間も走れば38度線で、北への伸長に限界があるということかもしれないし、南に新しい街が経路依存的(APEC開催)にできたことに原因があるかもしれない。明らかにソウルの街の重心は南に移りつつある。南は道も広くて、クリスマスのイルミネーションも明るかった。

ヨイドにある本来は中小企業の技術交換、情報交換、取引促進のためのドームが日曜日ということで中高生のコスプレに使われており、29日にそこに潜入した。すごい数の若者が、思い思いの漫画の主人公、ゲームの主人公に扮装して、気取って歩いている。

出店もたくさん出ているのが特徴だ。何を売っているかということ、携帯ストラップであ

ったり、バッジであったり。賞を争うというのではなく、主に高校生が漫画にでてくる主人公にコスチュームを変えてドームの中の出店を見たり、お互いに写真を撮って歩く集まりで、中に潜入したらなかなかおもしろかった。決まった服装をしている連中もいる。毎週日曜日に行われているのだという。

一人の女子学生に聞いた。「何しているの……」。彼女の答えは一言。「コスプレ」と。「コスプレって costume play がつづまった日本語だっけ……」と思いながら会場を後にした。あとで「コスプレ」を調べたら、ネットには以下の解説があった。

近頃では「コスプレイヤー」と呼ばれるカワイイ女の子たちが、アニメやゲームのキャラクターに変装してイベント会場に集まり、撮影会などをするのが一般的なコスプレ現象だという。韓国ソウルの中心街ヨイドのドームでの高校生の集まりは、正にこれだった。
(2回連載終わり)

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|----------|---|
| 1月14日(火) | 1 1月特定サービス産業動態統計
1 1月機械受注
1 2月マネーサプライ
米 1 2月小売売上高 |
| 1月15日(水) | 1 2月消費動向調査
1 2月東京・大阪地区百貨店売上
米地区連銀経済報告
米 1 1月企業在庫
米 1 2月卸売物価 |
| 1月16日(木) | 1 2月景気ウォッチャー調査
自民党大会
米 1 2月消費者物価
米 1 2月実質賃金
米 1月フィラデルフィア連銀指数 |
| 1月17日(金) | 1 1月鉱工業生産改定値、設備稼働率
1 2月企業物価
1 2月中古車販売
米 1 1月貿易収支
米 1 2月鉱工業生産、設備稼働率
米 1月ミシガン大学消費者センチメント指数 |

《 have a nice week 》

この2週間は「韓国レポート」があったために、少し長くなっていて申し訳ないと思います。この手のレポートは、相場の先行きだけを予想するのならせいぜいA4一枚くらいが良いでしょう。

しかし、このレポートには相場予想以上のものを入れようとしていることもあって、長くなることが多い。ま、今後も冗長にならないことを前提に、為替に関係ある経済・社会事情を広く掲載していきたいと思います。

それでは、みなさんには良い一週間を。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤 (E-mail ycaster@gol.com) が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》